

# 時の話題

## 血液の話題(2)

( 急性白血病はなおりますか? )

医療法人 幸良会 シーピーシークリニック  
武 元 良 整

前回、触れなかった話題です。白血病は抗がん剤だけでもなおるか?という質問についてです。「なおる」との回答率が2002年調査の看護学生2%、2004年調査の医薬品情報提供者20%、そして事務職員21%でした。単純に比較できませんが、白血病を克服した方がマスコミを通して知られるようになった事が「なおる」との回答につながったと考えられます。

### 「20年前の治療成績」

20年前のエビデンスとしての「生存率」を示します(図1、文献1)。100名の急性白血病の治療結果を文献から引用します。

年齢は12歳から78歳。その中央値は43歳です。図1に示すようにCR(Complete remission; 完全寛解)に70名が到達するも、その後CRを維持出来たのは図の右端、2段目のように僅か5名です。BMT(骨髄移植)で寛解を維持し生存されているのは同じ行に示すように5名。そして、再発した43名の中で、寛解生存は4名です。このように3年から7年間の観察で急性白血病を克服できたのは100例中14名(抗がん剤で9名、移植にて5名)という現実でした。20年前、最大の問題点は寛解達成してもそれを維持できない、再発する病気であると言う事でした。

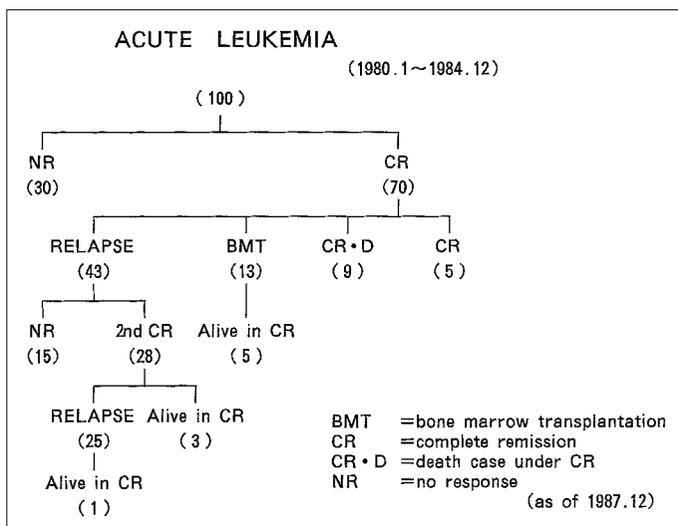


図1. 急性白血病100例の治療成績、文献1

時の話題

「最新の治療成績」

A. 化学療法：JALSG (Japan Adult Leukemia Study Group、日本成人白血病研究グループ) からの治療成績を図2に示します(文献2)。急性骨髄性白血病 (acute myeloid leukemia: AML) 767例(急性前骨髄球性白血病；APLを除外した)の生存率です。5年生存率は約40%です。

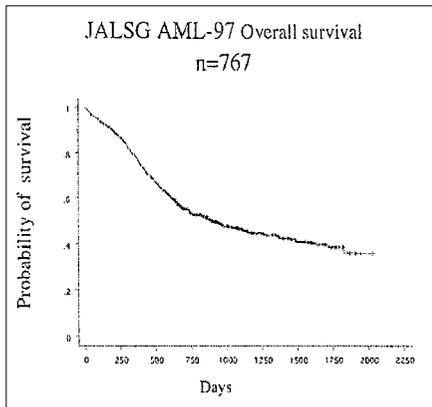


図2. 生存率曲線。1997年からの治療研究。

B. 造血細胞移植：また、予後不良群と予後中間群を対象にした同種造血細胞移植と化学療法との比較では43.1% vs 18.3% (5年無病生存率, 図4a)と移植成績の方

が良好でした。

C. 治療選択の基準、AMLには8種類ありますが、どのタイプが予後良好でしょうか？

急性前骨髄球性白血病 (APL) が最も良い生存率です。APL97プロトコール、294例の完全寛解率は94.6%、無病生存率は65% (文献3)。次は染色体異常(t(8;21))のある群、AML, M2です。その生存率(無病生存率)は56%(53%)、それ以外のAMLは41%(21%)と報告されています(文献2)。以上のように治療薬の進歩により不治の病と理解されていた白血病の一部は治癒が期待できるようになりました。

文献

1. 武元良整 他 急性白血病100例の予後因子 兵医学会誌 1988. 13: 165-170
2. 坂巻 壽 他 厚生労働省科学研究費補助金・効果的医療技術の確立推進臨床研究事業「難治性白血病に対する標準的治療法の確立に関する研究」班(大野班) 平成15年度第2回班会議資料、名古屋。
3. 宮脇修一 急性骨髄性白血病の治療一過去、現在、今後の展開— 臨血 2004. 45: 1223-1232。

【次回：セカンドオピニオンとは？】

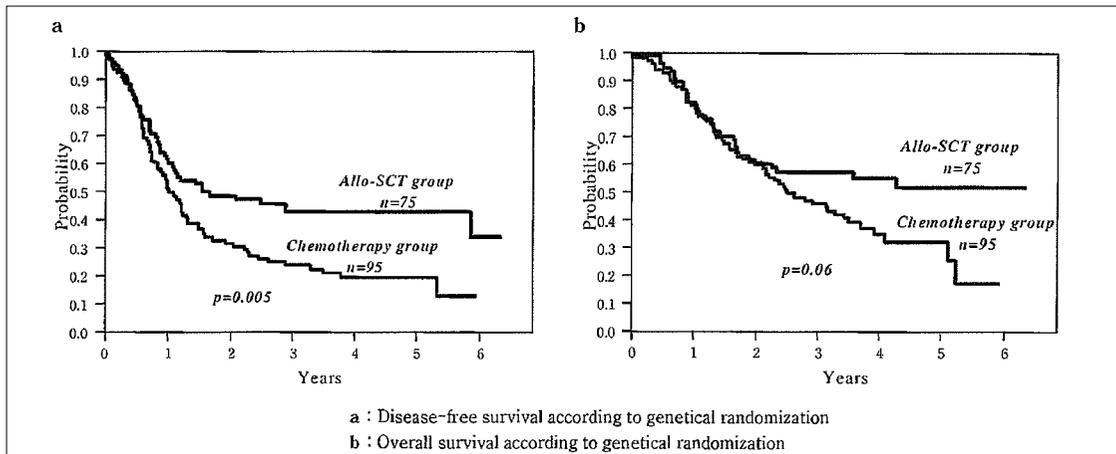


図3. ドナーの有無による2群間比較 a. 無病生存率、b. 全生存率、(文献3 改変) Allo-SCT group：同種造血細胞移植群、Chemotherapy group：化学療法群